

プレスリリース (2019/8/24 配信)

各宗教が合意：熱帯雨林破壊を止める義務 アマゾン熱帯雨林火災発生で緊急性高まる

今日の出来事：

RfP 初の女性事務総長が就任、トラック II 平和協議の成果、閉会式

2019年8月23日、ドイツ、リンダウ

第10回世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）ドイツ・リンダウ大会のテーマの一つである、地球環境保護は宗教コミュニティの力を結集することである。数ある活動の中で、WCRP/RfP は、諸宗教熱帯雨林イニシアチブ（IRI）との協力を通じこの目的に貢献している。同イニシアチブは、世界の熱帯雨林と、その守護者的存在である先住民族を保護するよう活動を行っている。宗教が深く関与し、影響を与え、そして道徳的権限を引き出すためである。ノルウェー国教会オスロ名誉主教であり、IRI 国際顧問兼 WCRP/RfP 国際名誉会長のグナール・スタルセット師は、ブラジルの先住民族組織指導者のソニア・ガジャジャラ氏と共にパネリストを務めた。最近ブラジルで起きている壊滅的な森林火災によって、同イニシアチブに特別な関心が寄せられた。

大会宣言文採択

閉会式において、正式代表者によって、第10回世界大会での決意と成果と共に宣言文が採択された。中でも、WCRP/RfP は幼児から成人まで、平和教育を推進することにより、紛争予防のスキルを構築し、暴力的紛争を回避したいと考えている。赦しと和解のための平和憲章を基に、歴史的な傷と対立する当事者の痛ましい記憶を癒すことが、すべての紛争解決の活動に組み込まれている。WCRP/RfP は「他者を歓迎する」好例を示すことで、調和の取れた多様な共同体に必要な尊敬、相互関係、連帯を率先して植え付けている。WCRP/RfP はまた、弱い立場にある人々やコミュニティの人権のために今後も取り組み続ける。

また、WCRP/RfP は持続可能な開発目標（SDGs）について、諸宗教熱帯雨林イニシアチブ（IRI）を通じた支援だけでなく、多面的に尽力し続ける。例えば持続可能な消費、労働者の尊厳、富の公平な配分などへの取り組みである。女性や青年の役割については、地元、国、地域、地球規模の組織における彼らのリーダーシップ、社会的役割をさらに促進していく。気候変動に関しては、「緑化のための集会」の推進を含めた地球保護のため、宗教共同体の力を結集させる。

新事務総長選出

世界最大の諸宗教組織である WCRP/RfP は、初の女性事務総長となるアッザ・カラム博士を紹介した。カイロ生まれのオランダ人科学者は、アムステルダム大学で宗教と開発を研究している。シニアアドバイザーとして、国連人口基金 (UNFPA) に勤務し、国連宗教・開発タスクフォースコーディネーターを務める。アッザ・カラム博士は、協議・調停のリーダーとして、またヨーロッパ、アラブ諸国、中央アジアにおける異文化間リーダーシップの指導者として長年研鑽を積んできた。また、国連の宗教、開発、外交の第一線でファシリテーターも務めている。新事務総長として 25 年間 WCRP/RfP を率いたウィリアム・ベントレイ博士の後を継ぐこととなった。

さらに、新しい 80 人の WCRP/RfP 国際評議委員が選出され、将来的にはドイツのマーゴット・ケスマン司教が選出される予定である。名誉会長には「世界宗教・市民団体平和対話財団」の議長を務めるウォルフガング・シューラー博士が選出された。

閉会式では、WCRP/RfP 第 10 回世界大会の正式代表者により、今後への決意と今大会の成果である宣言文が採択された。平和のための具体的な行動を進める最大かつ世界を代表する諸宗教組織 WCRP/RfP は決意を新たに平和活動を促進する。また、この役割に選出された最初の女性事務総長であるアッザ・カラム博士を紹介した。

「Interfaith Rainforest Initiative (IRI) 《諸宗教熱帯雨林イニシアチブ》」

「世界中の宗教者は、自然が地球上のすべてのいのちの根本を成すものとして保護されなければならないことに同意する」このように、地球規模の気候変動は、すべての信仰者に結束をもたらした。結局のところ、気候変動が水と資源をめぐる将来的に起こる紛争の主な原因の一つとなり、前代未聞の大規模移住を引き起こすことが長い間知られていた。この世界的な危機に対応して、WCRP/RfP とパートナー団体は、「Interfaith Rainforest Initiative (IRI) 《諸宗教熱帯雨林イニシアチブ》」を立ち上げた。諸宗教熱帯雨林イニシアチブ (IRI) は、世界中の熱帯雨林を保護するために、宗教代表者、先住民族、政府代表と協働する。アマゾン熱帯雨林にある村で生まれたソニア・ガジャジャラ氏は、2018 年にブラジルの副大統領に立候補し、現在は約 300 人を擁するブラジルの先住民族組織の指導者である。その中でガジャジャラ氏は諸宗教熱帯雨林イニシアチブ (IRI) に携わり、RfP 国際ネットワークを使ってコロンビアとペルーだけでなく、ブラジル、インドネシア、コンゴの熱帯雨林を保護するためのプロジェクトを開始した。ノルウェー国教会オスロ名誉主教兼 WCRP/RfP 国際共同会長のグナール・スタルセット師とソニア・ガジャジャラ氏は、熱帯森林破壊に終止符を打つため宗教指導者や地域社会に対し、精神、道徳、科学、人道、人権に関する教育を促進するよう求めた。さらに熱帯雨林と先住民族の権利を政策に求めるアドボカシー活動として「アクションポイント」を発表した。

トラック II 和平協議

持続的かつ積極的平和を醸成するためには現存する深刻な紛争の当事者間の調停を進めることが不可欠の条件である。

それら紛争の原因は、往々にして相異なる価値観に起因することがあり、多くの場合、国家的並びに宗教的な独自性が紛争を激化するために誤用される。

宗教が有する平和を創出する価値観を最前面に押し出すために、WCRP/RfP は和平協議の場に宗教代表者が極力関わられるよう支援協力する。

トラック II 和平協議を通し平和を調停し統合するために WCRP/RfP はまず当該の宗教代表者が直接面会するための支援を行う。非公開で安全が確保された環境の中でこそ、双方を共通の改善策に導く共通の価値観の共有プロセスが促進される。リンダウでの第 10 回 WCRP/RfP 世界大会での和平協議は、ミャンマーやバングラデシュ地域、韓国・北朝鮮間そしてマラケシュ宣言の枠組みに基づく中東・北アフリカ地域における少数者の保護、中央アフリカ共和国内の異宗教間の和解、南スダーンの内戦、コンゴ民主共和国の脆弱な政府への支援の課題に取り組んだ。

成果

諸宗教共同体間に平和のための共通行動を促進するために、世界最大で最も広範な宗教代表制に基づく諸宗教単体組織である WCRP/RfP は、開催地リンダウの市民に大きな関心と感動をもたらしたドイツ・リンダウ大会からの大きな成果と活発な交流を振り返った。新たに就任した RfP 国際事務総長、アッザ・カラム博士のリーダーシップの下、WCRP/RfP はリンダウ宣言に盛り込まれた決議事項や提案行動を着実に実施し、また各分科会担当宗教者は、世界全体に向かってその見解を表明していく。

リンダウの「世界宗教・市民団体平和対話財団」の議長ウォルフガング・シュラー博士並びに業務最高責任者ウルリッヒ・シュナイダー氏の意志を受けて、リンダウ市は今後 WCRP/RfP 関連の会合を受け入れることを表明した。リンダウ市内のライトポルトパークにある「リング・フォー・ピース（平和のための輪）」で表されたメビウスの帯の精神に啓発され、WCRP/RfP は宗教による平和のための具体的な行動を推進し続けることを誓った。

更に詳しい情報と写真:

<https://ringforpeace.org/press>

<https://rfp.org>

#rfp19 #ringforpeace #religions4peace

facebook.com/ringforpeace

instagram.com/ringforpeace

twitter.com/ringforpeace

報道関係への問い合わせ:

General: presse@ringforpeace.org

Katja Bettermann, bettermann@betternau.de, +49 151 14567140

Lena Hackforth, lena.hackforth@ringforpeace.org, +49 176 568 770 84